KPC

文書No．KEM0711－21

認証・登録番号 0003714

エコアクション21
環境経営レポート
2021

活動期間：2021年4月～2022年3月

2022年7月7日　発行

ケーピー株式会社

はじめに

当社は、２００９年6月5日にエコアクション２１の認証登録し、環境経営活動を継続しています。
２０２１年度の活動状況を下記項目にまとめ報告いたします。

目　次

ページ

1．組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2．対象範囲　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

3．環境経営方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2～3

4．環境経営システム組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

5．環境経営目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

6．環境経営計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

7．環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価
　次年度の取組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7～１０

8．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに
　違反、訴訟の有無　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

9．水質汚濁防止法の亜鉛対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

１０．代表者による全体評価と見直し結果　・・・・・・・・・・・・　１３

１１．ケーピーの環境活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４～１５

「地域貢献」の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６

ＳＤＧｓへの取組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

1. 組織の概要

項　目	内　容
事業所名	ケーピー株式会社　TEL:0855-32-4477
代表者名	代表取締役社長　杉本 勝則
所在地	島根県浜田市三隅町三隅250番地
環境保全関係の責任者及び連絡先	責任者:工場長　石田 勝博
事業内容	輸送用機械器具製造業 (金属プレス加工・金属表面処理加工・バネ加工・ 樹脂成型加工)
事業の規模	・年間出荷額　1,595 百万円/2021 年度実績 ・従業員数　52 名/2022 年 7 月 1 日現在 ・会社設立年月　1975 年 10 月 ㈱今井 ・工場設立年月　2006 年 6 月 ㈱今井 島根工場 ・工場延床面積　4,581 ㎡ ・社名変更　2008 年 9 月 ケーピー㈱へ

2. 対象範囲

1）認証・登録範囲

輸送用機械器具製造
(金属プレス・金属表面処理・バネ・樹脂成形加工)

2）環境活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間：２０２１年４月１日～２０２２年３月３１日

3）発行日：2022年7月7日

3. 環境経営方針

基本方針「経営理念」

価値のある企業をつくる

変わり続ける

・お客様の変化に先手で対応し、変わり続ける。

使いやすい部品を供給する

・部品に信用・信頼・心を込めて、お客様にお届けする。

人を幸せにする

・働く人々を幸せにし、お客様に貢献する。

かけがえのないメンバーが違いや存在を認め合い、思いやりをもって「一枚岩の会社」を目指していきましょう

行 動 指 針

誠 実

約束したことは大小にかかわらず誠実に実行する

正直な仕事をする。正直が最高の解決策です！

時 間

５分前までに集まる

時間は命です！

片付け

使用後は使用前よりきれいに

5Sの徹底！

3. 環境経営方針

ケーピー株式会社環境経営方針

ケーピー株式会社は、地球温暖化防止が人類の共通かつ重要な問題ととらえ、取り組んでいきます。自動車部品を製作している企業として環境負荷の低減が継続的な企業活動に必須な課題であることを強く認識し、私たちは以下のように環境マネジメントに取り組んでいくことをここに宣言します。

1．環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

2．環境法規及び地域と取り交わした協定を順守します。

3．次の項目を重点活動として定め、事業活動の環境負荷の低減を推進します。

①電気・燃料などの温室効果ガス排出量を削減します。
②産業廃棄物の排出量を削減し、分別を徹底し再資源化を推進します。
③水資源である工業用水の使用量を低減します。
④事務用品のグリーン購入を推進します。
⑤化学物質の使用量を低減します。
⑥製品の原材料の省資源を推進します。

4．本方針を全従業員に周知徹底します。

5．本方針は環境活動レポート等により、公開します。

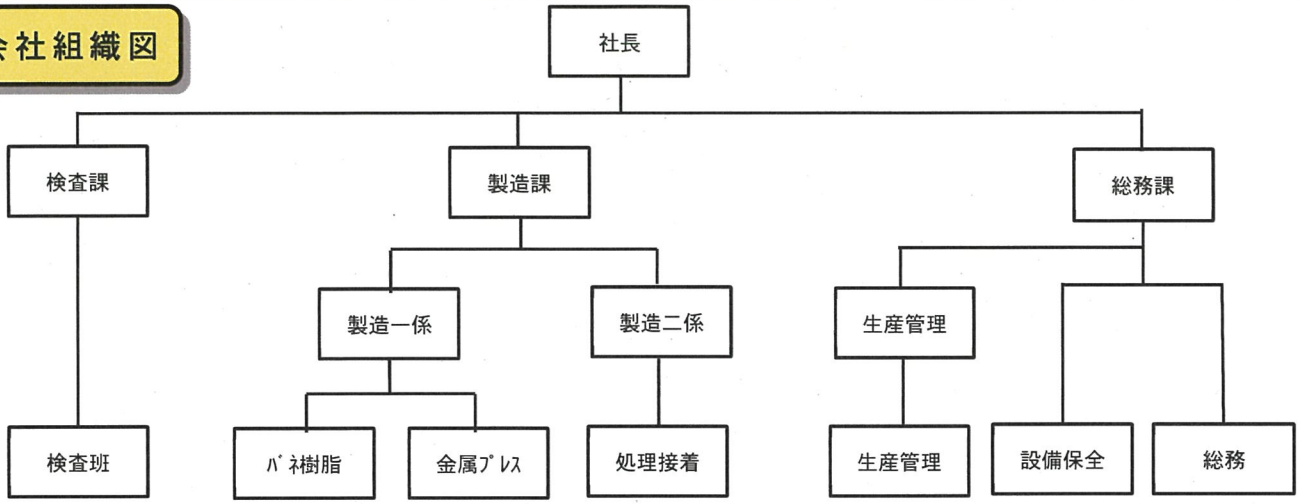
2022年7月1日

ケーピー株式会社

代表取締役社長　杉本 勝則

4. 環境経営システム組織図

会社組織図



環境経営組織図

更新日：2022年7月1日

	役割・責任・権限
代表者 （取締役社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間、技能技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者 〈工場長〉	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境目標の設定を承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境活動実施計画書を承認
環境事務局	・環境管理責任者、ＥＡ２１推進会議の事務局 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成 ・環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付）
部門長	・職場における環境経営システムの実施 ・職場における環境方針の周知 ・職場の従業員に対する教育訓練の実施 ・職場に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・職場の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・職場の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 ・環境負荷物質の計量と記録 ・省エネ、省資源施策への参画

5. 環境経営目標

環境キーワード	環境目標項目	単位	排出実績	単年度目標（見直し値）	中期目標	
			2009年	2021年	2022年	2023年
			基準年度	基準比	基準比	基準比
				18～76%減	18～76%減	19～76%減
二酸化炭素排出量	電力の削減	kWh	1,786,788	1,280,852 基準比 28.3%減	1,268,043	1,255,235
	LPガスの削減	kg	163,490 2018基準年	128,694	127,407	126,120
	電力のCO2削減 注)1	t-CO2	934.5	669.9	663.2	656.5
	LPガスのCO2削減 注)2	t-CO2	1,799.6	1,416.6	1,402.4	1,388.2
一般・産業廃棄物排出量	産廃（廃油・汚泥）の削減	kg	141,996 2011基準年	79,002 基準比 44%減	78,212 基準比 45%減	77,422 基準比 46%減
	産廃（廃プラ）の削減	kg	8,624	維持活動に変更した。	維持活動に変更した。	維持活動に変更した。
	コピー用紙の削減	枚	125,500	103,000 基準比 18%減	102,500 基準比 18%減	102,000 基準比 19%減
排水量	排水量削減	m3	102,144	24,696 基準比 76%減	24,449 基準比 76%減	24,202 基準比 76%減
化学物質	化学物質削減	kg	8,003 2010基準年	4,722 基準比 41%減 維持活動に変更	4,722 基準比 41%減 維持活動に変更	4,722 基準比 41%減 維持活動に変更
グリーン購入	グリーン購入品比率の増加	%	43 2010基準年	推進活動に変更した。	推進活動に変更した。	推進活動に変更した。
製品の原材料の省資源	工程不良率を把握し削減活動を展開する	—	品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動展開			

※二酸化炭素排出係数

注)1　電力は㈱新出光「2020年度係数（t-CO2/kWh）0.000523」を使用し算出した。

注)2　LPガスは燃焼時発熱量当りCO2排出係数0.0598（kg-C/MJ）、単位発熱量50.2MJ/kg を使用し算出した。

※中期目標値は、単年度実績に基づき見直しを行う。

※2018年2月にボイラ燃料を重油からＬＰガスへ転換した。

※産廃（廃油・汚泥）の削減については、2011年10月に排水処理施設の増設に伴い産廃が増加した為、2011年10月～2012年3月実績を基に年実績（141,996kg）に換算した。

※廃プラは2011年度実績（1,216kg）を維持する。

※グリーン購入は、「グリーン購入推進活動」に変更した。

※化学物質の削減については、生産量に大きく左右される為、当社ではコントロールが難しい為、維持活動とした。

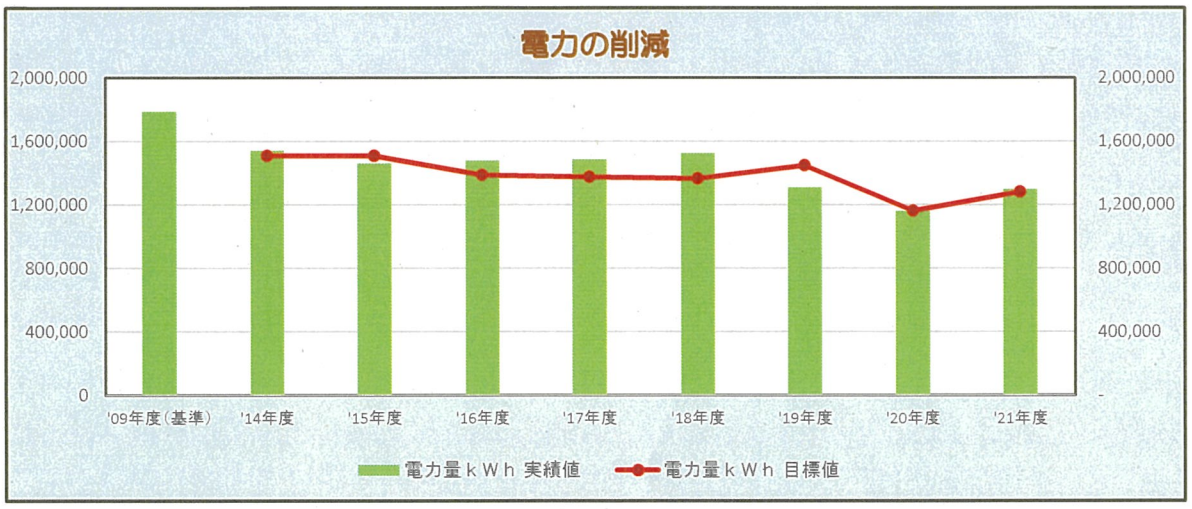
6. 環境経営計画

環境キーワード	環境目標項目	環境経営計画（取組内容）		
		単年計画	中期計画	
		2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	電力の削減	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアー漏れ確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。 ・遮熱塗装の評価。	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアー漏れ確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアー漏れ確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。
	ＬＰガスの削減 ※2018年2月に重油からLPガスへ転換した。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。
一般・産業廃棄物排出量	産廃（廃油・汚泥）の削減	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。
	産廃（廃プラ）の削減	・維持活動を継続する。	・維持活動を継続する。	・維持活動を継続する。
	コピー用紙の削減	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。 （プロジェクタ使用、議事録のデータ配信） ・社内配布は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。 （プロジェクタ使用、議事録のデータ配信） ・社内配付は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。 （プロジェクタ使用、議事録のデータ配信） ・社内配付は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。
排水量	排水量削減	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。
化学物質	化学物質削減	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。
グリーン購入	グリーン購入品比率の増加	・グリーン購入品推進活動を継続する。	・グリーン購入品推進活動を継続する。	・グリーン購入品推進活動を継続する。
製品の原材料の省資源	工程不良率を把握し削減！活動を展開する	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。

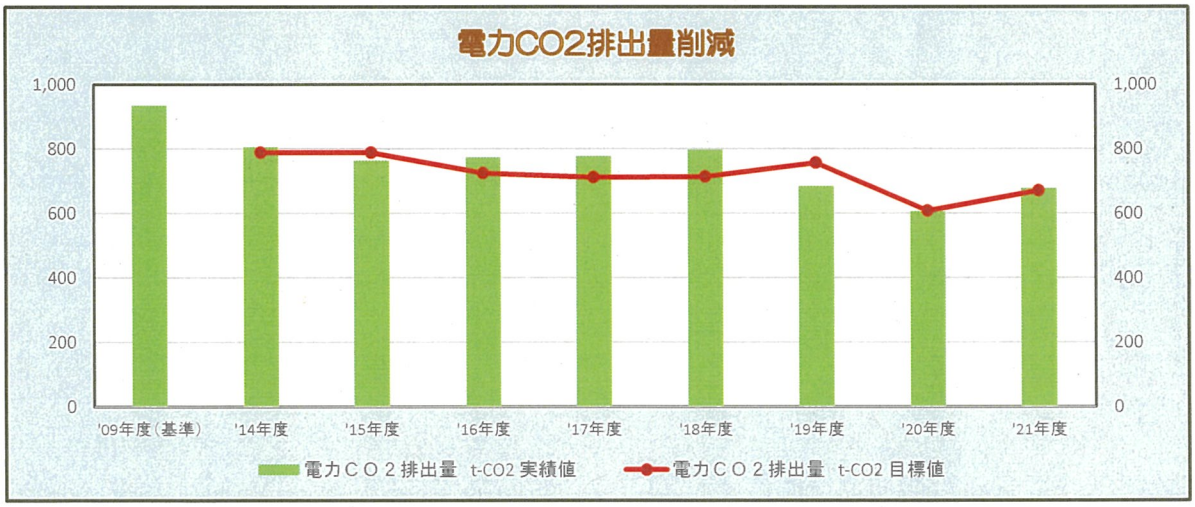
評価記号
◎・・目標達成
△・・あと少しで目標達成
×・・目標未達成

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

環境キーワード	環境目標項目	単位	2009年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
二酸化炭素排出量	電力の削減	ｋＷｈ	1,786,788	1,280,852	**1,294,488**	＋13,636	△



環境目標項目	単位	2009年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
電力のＣＯ2削減	t-CO2	934.5	669.9	**677.0**	＋7.1	△



環境経営計画　２０２１年	取組結果とその評価		次年度の取組内容 ２０２２年度
・装置未稼働時は電源を切る。	・装置未稼働時に電源を切ることは定着した。	◎	・装置未稼働時は電源を切る。
・休憩時の消灯を遵守する。	・休憩時の消灯については遵守されていた。	◎	・休憩時の消灯を遵守する。
・処理機未使用時は乾燥機電源を切る。	・処理機未使用時に乾燥機電源を切ることは定着した。	◎	・処理機未使用時は乾燥機電源を切る。
・スポットクーラの温度設定を遵守する。（設定値２０℃以上）	・スポットクーラの温度設定については真夏日、猛暑日において熱中症予防の観点から設定温度を下げた。	△	・スポットクーラの温度設定を遵守する。（設定値２０℃以上）
・装置稼働前にエアー漏れ確認を励行する。	・日常業務においてエアー漏れチェックが定着し省エネ意識の向上が図れた。	◎	・装置稼働前にエアー漏れ確認を励行する。

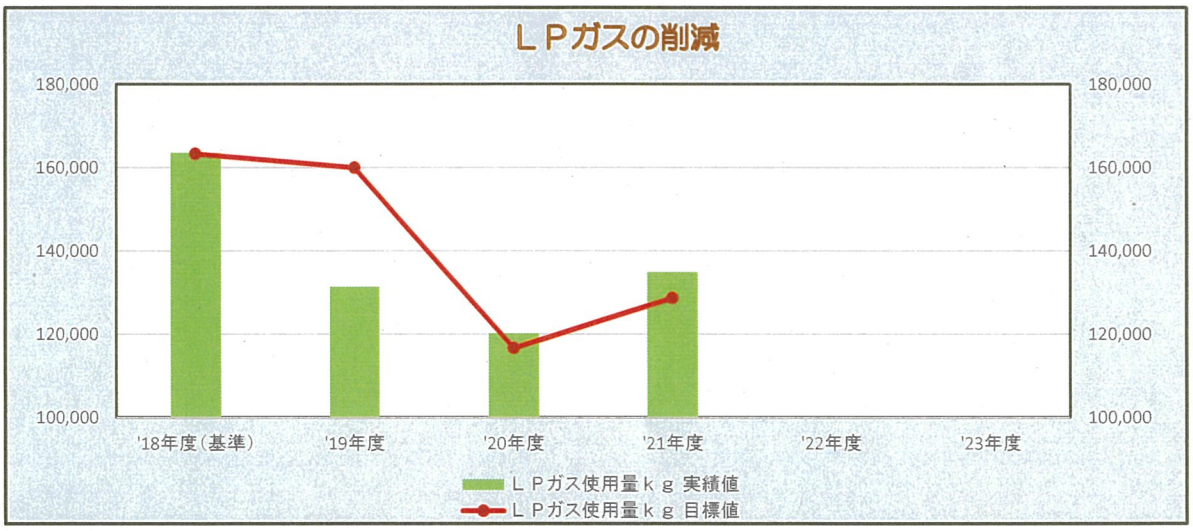
評価記号
◎・・目標達成
△・・あと少しで目標達成
×・・目標未達成

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

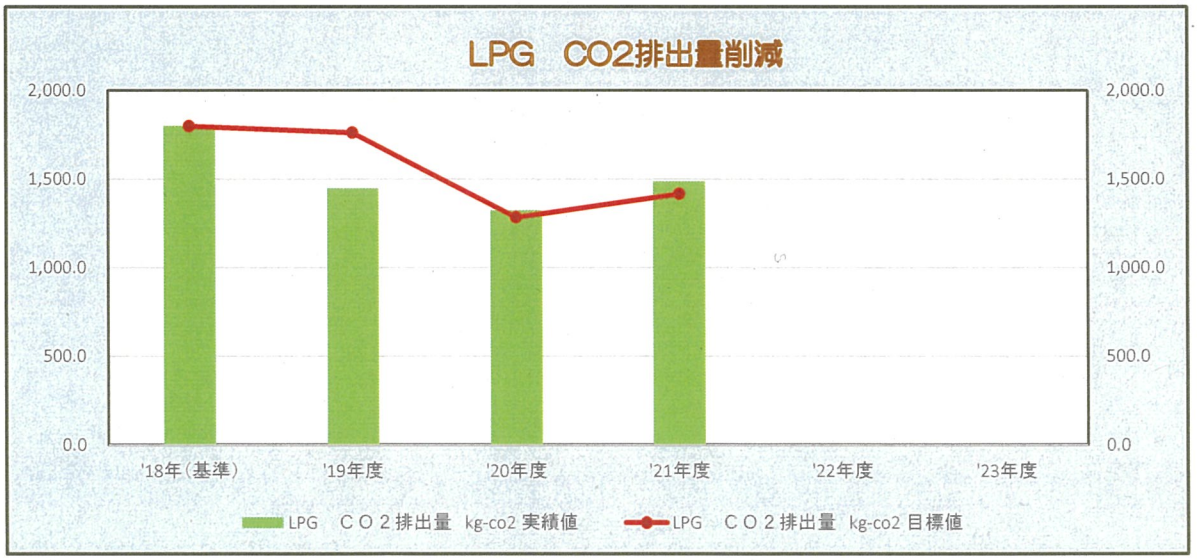
二酸化炭素排出量

環境キーワード	環境目標項目	単位	2018年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
	ＬＰガスの削減	ｋｇ	163,490	128,694	134,910	+6,216	×

2018年2月より、ボイラ燃料を重油からLPガスへ転換した。



環境目標項目	単位	2018年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
ＬＰガス ＣＯ2削減	t-CO2	1,799.6	1,416.6	1,485.0	+68.4	×



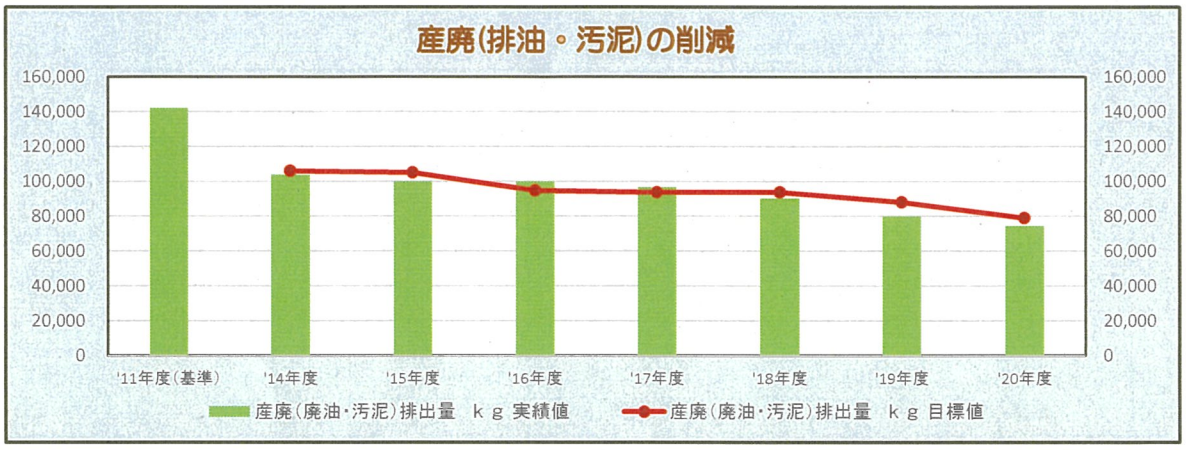
環境経営計画 ２０２１年	取組結果とその評価		次年度の取組内容 ２０２２年度
・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。	・保温カバーの破損部はその都度、交換、付替えを行った。	◎	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。
・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。	・日常業務において蒸気漏れ確認が定着し、省エネ意識の向上が図れた。	◎	・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。
・設備稼働停止時にスチームを切る。	・設備停止時にスチームを切る。振動接着機未使用時は乾燥機の電源を切ることは遵守された。	◎	・設備稼働停止時にスチームを切る。
・振動接着乾燥機５号、６号の未使用時は乾燥機の電源を切る。	・振動接着乾燥機５号、６号の未使用時は乾燥機の電源を切ることは遵守された。	◎	・振動接着乾燥機５号、６号の未使用時は乾燥機の電源を切る。

評価記号
◎・・目標達成
△・・あと少しで目標達成
×・・目標未達成

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

環境キーワード	環境目標項目	単位	2011年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
12 つくる責任 つかう責任	産廃（廃油・汚泥の削減）	ｋｇ	141, 996	79, 002	77, 800	-1, 202	◎

一般・産業廃棄物排



環境経営計画 ２０２１年	取組結果とその評価		次年度の取組内容 ２０２２年度
・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。	・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上は図れた。	◎	・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。
・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。	・処理液の気化防止の為、処理液の未使用時は容器に蓋をすることは定着した。	◎	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。

環境キーワード	環境目標項目	単位	2009年度 基準年度	２０２１年度 目標	２０２１年度 実績	差	評価
12 つくる責任 つかう責任	コピー用紙の削減	枚	125, 500	103, 000	100, 500	－2, 500	◎

一般・産業廃棄物排出

環境経営計画 ２０２１年	取組結果とその評価		次年度の取組内容 ２０２２年度
・不要コピー、不要プリントの禁止。	・不要コピー、不要プリントの禁止は遵守された。	◎	・不要コピー、不要プリントの禁止。
・使用枚数の記入による意識付け。	・使用枚数の記入による意識付けは図られた。	◎	・使用枚数の記入による意識付け。
・社内配付は裏紙を使用する。	・社内配付はＡ４に関しては裏紙使用が図られたが、Ａ３は用紙が無く新品使用となった。	△	・社内配付は裏紙を使用する。
・両面コピーを活用する。	・標準書類、作業指導票に関しては掲示する為、片面コピーとなった。	△	・両面コピーを活用する。
・会議資料配付の禁止。（プロジェクタ使用、議事録のデータ配付）	・プロジェクタの使用が図られ、議事録は電子データで配信された。	◎	・会議資料の配布禁止。（プロジェクタ使用、議事録のデータ配付）
			・ミスプリントを行わない為にプリント設定を確認する。

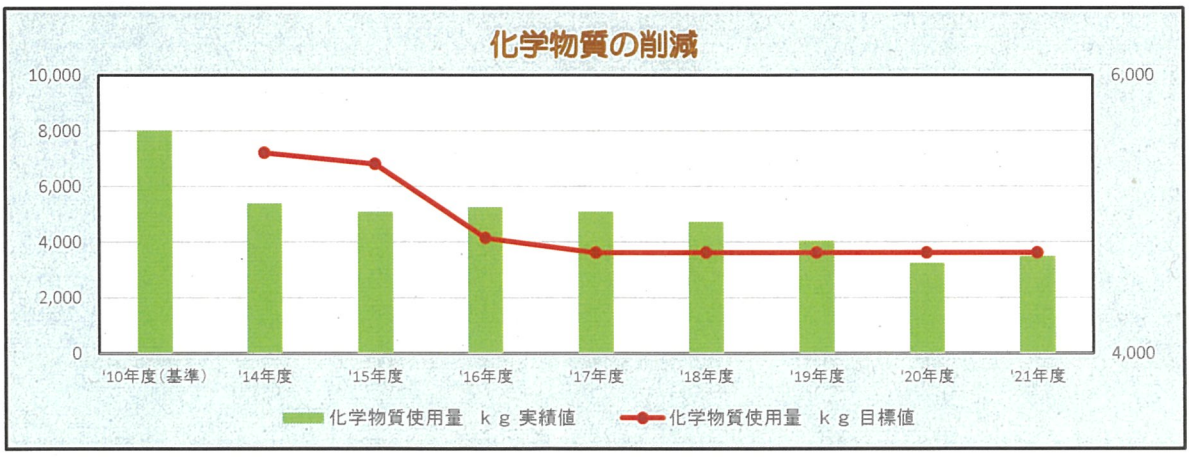
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

評価記号
◎・・目標達成
△・・あと少しで目標達成
×・・目標未達成

環境キーワード	環境目標項目	単位	2009年度 基準年度	2021年度 目標	2021年度 実績	差	評価
排水量	排水量の削減	m3	102,144	24,696	26,603	+1,907	×

環境経営計画 2021年	取組結果とその評価		次年度の取組内容 2022年度
・流量を守る。（日常点検で確認する）	・日常点検で流量の確認を実施した。	◎	・流量を守る。（日常点検で確認する）
・洗浄室の作業で水を出しっ放しにしない。	・洗浄室の作業で水の出しっ放しにしないことは遵守された。	◎	・洗浄室の作業で水を出しっ放しにしない。
・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしない。	・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしないことは遵守された。	◎	・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしない。
・装置終了後に水ﾊﾞﾙﾌﾞの閉め方を使用しなくなった槽から順次しめる。	・水ﾊﾞﾙﾌﾞの閉め方を使用しなくなった槽から順次閉めることは定着した。	◎	・水ﾊﾞﾙﾌﾞの閉め方を使用しなくなった槽から順次閉める。
・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を補充する。	・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を取り補充することは定着した。	◎	・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を取り補充する。

環境キーワード	環境目標項目	単位	2009年度 基準年度	2021年度 目標	2021年度 実績	差	評価
化学物質	化学物質の削減	kg	8,003	4,722	3,481	-1,241	◎



環境経営計画 2021年	取組結果とその評価	次年度の取組内容 2022年度
・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。	・産廃（廃液・汚泥）の取組みを展開した。	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。
◆化学物質の削減活動は生産量の変動に大きく左右される為、当社でのコントロールが難しく維持活動とする。		

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反・訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制とその順守状況は次のとおりです。

法　規　名	該当する項目	評　価　内　容	遵守状況
水質汚濁防止法	**表面処理設備**	・排水処理施設稼働。 ・１回/月の工場排水の水質検査を実施し基準値内を確認した。 ・浜田保健所へ水質検査結果を報告した。	○
労働安全衛生法	**有機溶剤** **特定化学物質**	・局所排気設備稼働。 ・2 回/年の有機溶剤濃度を測定し基準値内を確認した。 ・該当作業者の特殊健康診断を 2 回/年実施した。	○
消防法	**ボイラー・危険物**	・危険物取扱保安監督者選任 ・ﾎﾞｲﾗｰ取扱技能者選任	○
廃棄物処理法	**産業廃棄物** （廃油・表面処理ｽﾗｯｼﾞ）	・産業廃棄物処理業者と産業廃棄物処理委託契約書の取り交し実施した。 ・産業廃棄物処理に関する許可証受領した。 ・産業廃棄物回収時のマニフェスト発行及び回収確認実施した。 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告を県知事に提出した。	○
三隅町との環境保全に関する協定	**工場排水・工場騒音**	・三隅支所へ水質検査結果を１回/年報告実施。 ・工場周辺の騒音測定１回/年実施し基準値内を確認し、結果を三隅支所へ１回/年報告した。	○
化学物質排出把握管理促進法	**第一種指定化学物質ごとの排出量及び移動量**	・第一種指定化学物質ごとの排出量及び移動量を１回/月把握した。 ・ＰＲＴＲ法に亜鉛の水溶液化合物、キシレン、フェノール、エチルベンゼン、セロソブル、ポリ（オキシエチレン）、ニッケル化合物が該当するが、基準量以下である。	○
特別管理産業廃棄物管理責任者	**特別管理産業廃棄物管理責任者の設置**	・特別管理産業廃棄物管理責任者の資格取得者を管理責任者として設置している。	○

評　価

1）　環境関連法規制などの遵守状況の定期評価の結果、環境法規制などの逸脱はありません。

2）保健所による採水検査が実施されましたが、すべての項目で規制を達成しました。

3）過去３年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

9. 水質汚濁防止法の亜鉛対策

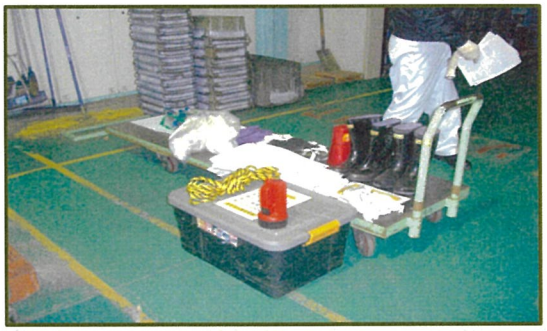
2011年12月11日以降の亜鉛規制に適合する為、排水処理施設を新設
2011年9月末より稼動を開始した。

亜鉛濃度排水基準

2mg／L以下

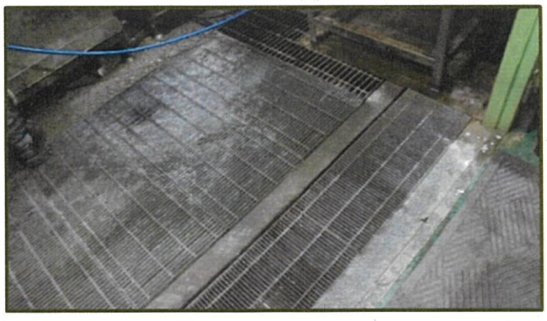
2021年度 亜鉛濃度測定結果
0．1未満～0．9mg／L
基準クリアしている。

緊急事態（薬品漏洩）対応訓練の実地状況

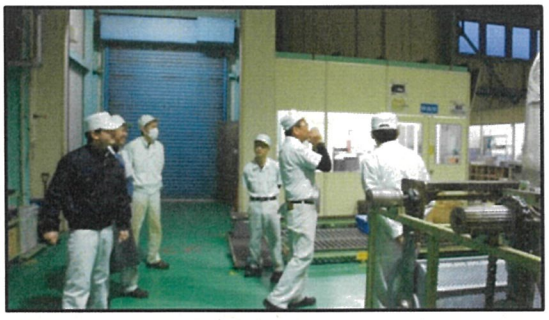


【緊急時対応用具箱の中身の点検】

【保護具着用の実演】



【ｺﾝｸﾘｰﾄ床からｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ床に変更、
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞの下の排水箇所に土嚢置く】



【薬品漏洩時、大声で周囲の作業者に
知らせる訓練】

10. 代表者による全体評価と見直し結果

総　括

1. 取組状況の評価

法的要求事項は遵守されており、今後も遵守すること。

2. 目標の達成度

No.	項　目	計　画		単位	実　績	単位	判定
1	電力の削減、 電力 CO2 の削減	電力	1,280,852	kWh	1,294,488	kWh	×
		CO2	669.9	t-CO2	677.0	t-CO2	×
2	ＬＰガスの削減、 ＬＰガス CO2 の削減	LPG	128,694	Kg	134,910	Kg	×
		CO2	1,416.7	t-CO2	1,485.0	t-CO2	×
3	産廃（廃液・汚泥）の削減		79,002	Kg	77,800	Kg	○
4	コピー用紙の削減		103,000	枚	100,500	枚	○
5	工業用水の削減		24,696	m3	26,603	m3	×
6	化学物質の削減		4,722	Kg	3,481	Kg	○
7	製品の原材料の省資源	不良率低減活動を展開する		－	不良率低減活動を展開した	－	○

・７項目の活動に対し４項目、目標達成した。

※総二酸化炭素排出量は、2021 年度は 1,085.8 t-CO2（環境への負荷の自己ﾁｪｯｸより）

代表者コメント：

①目標達成に向けての活動は課員全員で行うこと。
②改善アイテムの抽出に課員の協力を得ること。
③定期的に朝礼で削減の実績（使用量と金額）と協力をＰＲすること。

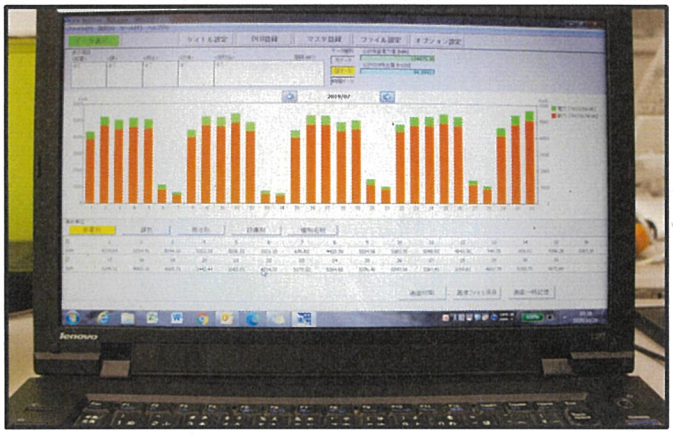
3. システムの各要素

・スピード感を持って活動すること。
・2022 年度もコロナウイルスの影響、自動車業界のＥＶ化、半導体不足等により市場が著しく変化する。
その変化に素早く対応できる体制を構築すること。

11. ケーピーの環境活動

省エネ対策、CO2削減

●電力監視装置（ＫＷウオッチャー）設置

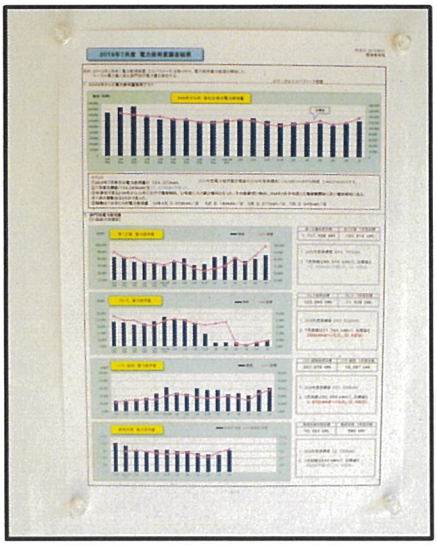


2012年2月に電力監視装置を導入。

電力の見える化により、各部門の電力使用量（配電盤単位）が把握でき、改善を要するラインや装置が明確になり、改善対策に的が絞れた。

また、改善前・改善後の比較も可能となり、担当者も成果を確認でき、更なる改善に意欲が湧いた。

●毎月部門毎の電力使用量を掲示



電力監視装置を活用し、毎月部門毎の電力使用量をグラフ化することにより、月毎の変化や目標値に対し実績が一目で分かる。

また、掲示することにより課員が自部門の電力使用量を知ることにより、更なる節電意欲につながる。

●環境委員会開催

1 回/月の頻度で環境委員会を開催し、月毎の取組みや実績を確認している。
また、問題点については対策を検討・実施している。PDCAを回し、スパイラルアップを図っている。

省エネ対策、CO2削減

●工場内の照明を水銀灯からＬＥＤに変更

第1工場
2014年9月～2017年1月にかけて工場内の水銀灯26灯をLEDに変更した。
1日当たり約315kWh→229kWhとなり86kWh削減。
1月(21日稼働)で1，806kWh削減。

第2工場
2012年7月～2013年9月にかけて工場内の水銀灯24灯をLEDに変更した。
1日当たり約262kWh→144kWhとなり118kWh削減。
1月(21日稼働)で2，478kWh削減。

●ＣＯ２削減の為、重油からＬＰガスへ切り替え

CO2排出量を削減する為、
2018年2月よりボイラーの
燃料を重油からLPガスに
切り替えた。

●室内の温度上昇を押さえ職場環境改善を図る為、第一工場の屋根に遮熱塗装を行った。

2019年6月、2020年3月
2回に分けて屋根の遮熱塗装を行った。

地域貢献

毎年3月、ケーピー株式会社正門前の市道約100m範囲の排水溝に溜まった土砂を社員全員で撤去している。

ＳＤＧｓ への取組み

2015年　国連サミットでのSDGs（持続可能な開発目標）の採択。
2017年　企業が持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う（経団連行動憲章改定）
など国内外でSDGsに関する取組が加速されています。

当社としてもエコアクション21を展開する中、SDGsとの関連を考えながら活動を進めています。